



中学生交流プログラム

～参加者のその後～

カリタス女子中学高等学校3年(当時)
湯口 芽衣子
父 湯口 俊彦
母 湯口 多賀子

第5回中学生交流プログラム(ベトナム・2013年)で、ベトナムからの女の子・ウェンさんが我が家にホームステイしました。それから3年と少しが経ち、娘とどこか旅行を考えた時、ウェンさんの住むベトナムの古都フエに行き会ってこようとなったのです。

2017年3月1日から6日までベトナムに行ってきました。偶然にも、天皇陛下・皇后陛下のベトナム訪問とほぼ一緒の日程・行程となり驚きました。フエに行くためには、ハノイかホーチミンかで、飛行機を乗り換える必要があります。私たちはハノイ経由でベトナムに入り、世界遺産のハロン湾を観光した後、フエに移動しました。同じ日、天皇陛下・皇后陛下もハノイから

フエに移動したため、フエでは歓迎の垂れ幕が下げられていました。



右手前2番目が芽衣子さん、隣が母

3月3日、フエについた日の夜と一緒に食事をし、次の日は、ウェンさんが一日フエを案内してくれました。ウェンさんのご家族ともお会いすることができ、楽しい時間を過ごしました。

ウェンさんは高校で日本語コースに在籍しています。そのためか、日本語がとても上手になっていて、「いつ日本で暮らすことになって大丈夫だね」と話しました。とても、一生懸命勉強をしているのだらうと思います。

ベトナムに行き驚いたことは、バイクの多さです。話には聞いていましたが、歩行者は二の次、歩行者が道を横断するのは命がけという感じがします。ウェンさんに聞いてみましたが、ベトナムはそれが当たり前なので、道を横断するのは怖くないそうです。私と娘は、なぜか自然と手をつなぎ、手に汗をかきながら道を渡りました。

ベトナムは今、発展を続けている国です。人々は活気に満ちていました。ハロン湾に行ったときのベトナム人ガイドさんが、「20年後のベトナムにもう一度来てほしい。とても変わっているだろう」と、力強く言った言葉が印象に残っています。

ウェンさんは大学で日本に来たいそうです。その時、成長した彼女に会えることを楽しみにしています。3年前の2泊3日の短いホームステイでしたが、細く長くその縁をつないでいきたいと思っています。

娘は現在、フランスに留学中ですが、帰ってきたら、第6回インドネシアのプログラムで受け入れた女の子を訪ねてみたいと思っています。

●第6回中学生交流参加者母より近況

2014年にインドネシアに行きました塚本日向(当時、加藤学園暁秀中学校2年)の母です。現在の日向についてお知らせいたします。

2015,2016年にアメリカのCRSというキャンプに日本代表として参加し、昨年、高校受験をしまして、現在、ICU高校の2年生になりました。部活にダンスを選び、今はダンス部の部長として、日々、勉強よりも部活中心の生活をしております。

団のメンバーとは今も連絡をとっているようです。海外に留学されている方もいらしてお互いに良い刺激を受けながらの良い仲間です。

世界万華鏡

ベトナム・ハノイ便り EPA 候補者、陛下に謁見

本年3月2日、天皇陛下がベトナムにお越しになりました。日本語を学ぶEPA 介護福祉士候補者4名は懇談会で陛下に謁見しました。まず、グエンティハインさんが代表し自己紹介。

「陛下、お目にかかれて光栄でございます。グエンティハインと申します。介護福祉士候補者です。私たち200名は1年間、日本語の勉強をして、今年の5月に日本へ行く予定です。日本で日本語の勉強や介護の仕事しながら、国家試験合格を目指します。そして長く日本で働きたいと思っています。」その後、陛下と会話をしました。

●ハインさん

陛下「日本語はどのくらい勉強しましたか」

ハイン「1年間勉強しました」

陛下「そうですか、1年間だけですか。日本語がすごく上手ですね」

ハイン「まだまだでございます。分からないことがたくさんあります」

陛下「日本は、どこへ行く予定ですか」

ハイン「横浜市へ行く予定です」

陛下「日本は高齢者が増えていますから、手伝ってくださり、嬉しいです」

ハイン「はい、頑張ります」

陛下「介護の試験がありますね。難し

いですよね。仕事も勉強も頑張ってくださいね」

ハイン「はい、国家試験はとても難しいので、頑張って合格したいと思っています。ありがとうございました」

●チュンさん

陛下「日本のどこに行きますか」

チュン「私は、東京の西久留米市に行く予定です」

陛下「どうして日本に行こうと思ったのですか」

チュン「日本のお年寄りの役に立ちたいし、ベトナムと日本の懸け橋になりたいと思っていますから」

●マイさん

陛下「日本語の勉強はどうですか」

マイ「私にとって日本語は、はじめは本当に難しかったのですが、毎日勉強を続けてだんだん好きになってきました」

陛下「どうして日本に行きたいですか」

マイ「私は、医療が進んでいる日本で、技術力のある介護福祉士になりたいと思ったからです」

●トゥエットさん

陛下「日本語の勉強はどうですか」

トゥエット「とても難しいですが、面白いと思います」

陛下「何が面白いのですか」

トゥエット「漢字の勉強が一番面白いです。漢字を勉強するときには、人との物を形を想像しながら、勉強します」

●4人の感想

陛下にお目にかかれて、とても光栄でした。感動しました。陛下と話せることは、一生に一回だけだと思います。すごく緊張しましたが、両陛下はとても優しい方でしたので、うまく話せました。陛下に握手していただいたので、言葉にできないくらい幸せでした。両陛下の期待に応えて、これからも頑張りたいと思います。

平成29年3月2日 ARC ベトナム校発行、特別号より。

EPAとは、Economic Partnership Agreement(経済連携協定)のこと。これに基づき日本政府は日本に受け入れるベトナム、インドネシアおよびフィリピン看護師・介護福祉士候補者に対して来日前と来日後に日本語予備語学研修を実施している。日本語学習のほか、日本社会への十分な理解と日本の生活習慣の習得が学習目標。

平成29年6月17日発行
一般社団法人 国際フレンドシップ協会
〒106-0041 東京都港区麻布台3-4-12
麻布台ロイヤルプラザ703
発行責任者: 及川 伊佐子
編集: 事務局 03(3582)3021
印刷: 音和堂印刷株式会社



中学生交流プログラム

台湾との交流が家族から親族へ

IFA が実施している「中学生交流プログラム」第4回事業に参加し、台湾を訪問した笹崎千陽陽団員ご家庭では、その後、両親と千陽さんが台湾を訪問、今年は台湾のホストファミリーの親族が来日、交流の輪が広がっている。

東京都三鷹市立第五中学校 3年

(当時)
 ささき ちはる
 笹崎 千陽
 父 笹崎 和明
 母 笹崎 真由美

派遣事業で千陽が台湾を訪問したのは平成24年10月、その翌月に台湾でのホームステイで受け入れてくれたホスト生徒、黄可欣(呼名:コーシン)が同プログラム訪日研修で来日、わが家ではホストファミリーを名乗り出た。

その翌年、中学校を卒業した千陽と一緒に春休みにコーシン家族を尋ねる台湾旅行をした。こうして家族ぐるみ

の交流が始まった。(本誌、平成25年4月号参照)

その後も日本語が堪能というコーシンの母方の祖父を通じて、電話やフェイスブックによる交流が続き、今年3月には、コーシンの母親の兄弟、長男(兄)と次男(弟)が来日した。交流が家族から親族へと広がっている。

同長男は食品衛生を研究する大学の教授で、一昨年、わが家が台湾を訪問したときに会食をして知り合っていた。今回の来日は40人程の学生を引率し、次男が付き添いとして参加する日本研修旅行だった。ヤクルト、森永、サントリーなどの企業見学、千葉県・幕張メッセで行われた「国際食品・飲料展」等のイベント見学が主目的。毎年学生を引率して来日しているという。

一行が滞在している東京都・新宿のホテルで5人で会食。生けすで泳いでいる魚を釣ってその場でさばいてもらい食べるお店。2人はとても気に入り、台湾でぜひこのようなお店を開こうとわれわれを巻き込んで実現の方向で話が進んでいる。

その後、近くの店主が北京語を話す中華料理店へ移動。その店主とも意気投合。台湾語のほうが北京語より難しいなどと会話がはずんだ。

長男は日本語を話せないが次男は中学校で日本語を選択したため、片言だが話す。コーシン一家は祖父母ほか、親族皆が日本大好きでよく日本にも観光旅行で来ていたらしい。祖父は日本

で言う農水省の上級職だったため、息子たちは食品関連の仕事に就いてついでに。生けすの料理店の実現も有り得るかもしれない。同中華料理(北京ダックの店)での予約名は、様ではなく「大老子」(年をとった先生の意)と書いてあった。



向かって左より、千陽、長男、次男

今回の来日では、ダンボール一杯のお土産を持ってきてくれた。お返しに、今年はとても寒いという台湾の祖父母には帽子やストールを長男と次男に託した。すると、帰国日のうちにお礼のお電話をいただいた。

中学生交流プログラムでは、子ども同士の交流はもちろん、親も良い経験をさせていただいている。こうして交流が続くのは台湾というお国柄に加えて、日本語を話す日本びいきの祖父母の存在が大きい。かつて日本が統治していたころを懐かしく思ってくれる台湾の人々を改めて感じた。昨年春に台湾を訪問したときの別れのように父(和明)はまた長男と次男とのお別れに涙となった。

世界万華鏡

ベトナム留学生の見た日本 ホアーン コン チョン “笑いながら怒っています”

皆さん、「ホンネとタテマエ」を知っていますか。「ホンネ」は本当の気持ちです。「タテマエ」は人に見せる顔のことです。

日本人にとって、話すときの態度は大切だそうです。ですから、ときどき、表情と本当の気持ちが違うときもあります。皆さんはどう思いますか。日本人と話すとき、日本人の本当の気持ちが見えたと思ったことがありますか。私はこんな経験をしたことがあります。ある日本人が、笑いながら「怒っていますよ」と私に言いました。私はそれを聞いて思わず笑ってしまいました。その人が本当に怒っているのかどうかわからなかったからです。

でも、日本人は、子どものときからホンネとタテマエがあるのでしょうか。

ある日、私は恋人と公園を散歩していました。そのとき、4、5歳の子どもがサッカーを見ていました。とてもかわいい子どもだったので、恋人は「ああ、かわいい、かわいい、写真をとってもいい」と聞きました。子どもは、すぐに「いやだ」と返事をしました。恋人は、それを聞いてショックをうけて、泣いてしまいました。そして、私のところに走ってきて「チョン、子どもがほしい、子どもがほしい」と言

いました。泣いている恋人が泣きやむように、私は「OK」と言いました。恋人は、日本人なのにはっきり言ったので、おどろいて泣いてしまったのだと思います。



子どもは本当の気持ちをはっきり言いました。もし、聞かれた人が子どもではなくて日本人の大人だったら、どうなるかなと思いました。すぐにこんな考えができました。たとえば、私が「すみません、写真をとってもよろしいでしょうか」と聞きます。大人は「すみません、それは、ちょっと…」と返事をすると思います。これが私の国の大人だったら、こんな言い方で返事をすると思います。「いいえ、ダメ」皆さんが聞かれたら、どうしますか。

日本人は、いつからホンネとタテマエをもつようになったのでしょうか。ベトナムにはホンネとタテマエは、ほ

んどありませんから、日本人の本当の気持ちばかりに思っています。

この前、私は工場でアルバイトをしていましたが、ある日、病気になったので、電話をして休みをとりました。そのとき、「すみません、かぜをひいて、熱があって、頭が痛いので休ませていただけないでしょうか」と聞きました。工場長は「うん、いいよ」と言ってくれました。でも、そのあと、工場長の態度は、ちょっと変わりました。私は「ええ、なんで」と本当にわかりにくいと思います。

日本に住んでいる私たち外国人は日本人のホンネとタテマエをもっともっと知ったほうがいいと思います。日本で生活しやすくなりますし、日本人の友だちがもっとできると思いますから。

平成26年2月7日実施、IFA後援、「第10回日本語学校合同スピーチ大会」特別賞受賞スピーチ。

平成26年3月17日発行
 一般社団法人 国際フレンドシップ協会
 〒106-0041 東京都港区麻布台3-4-12
 麻布台ロイヤルプラザ502
 発行責任者: 及川 伊佐子
 編集: 事務局 03(3582)3021
 印刷: 音和堂印刷株式会社



第4回中学生交流プログラム

プログラム終了後も交流が続く

IFAが公益財団法人かめのり財団の支援を受け、昨年10月と11月に実施した中学生交流プログラムは、台湾への派遣と台湾中学生の招聘事業だった。その後、ホストファミリー同士の交流が続いており、ここに、台湾のホストファミリーを訪問した笹崎千陽団員のご両親からの感想を紹介する。

東京都三鷹市立第五中学校 3年
 笹崎 千陽
 父 笹崎 和明
 母 笹崎 真由美

台湾との交流プログラムの際は娘の千陽の派遣、そしてホームステイでお世話になった黄さんの来日の際の受入と、色々とうございました。

さて、先月の2月18日～21日に台湾でお世話になった黄可欣(呼名:コーシン)さんファミリーを訪ねに台湾・台北に行ってきました。

黄さんの母方のご両親は日本語が話せるため大変助かりました。空港(松山空港)へのお迎えから、台北の町案内、食事、見送りと言葉にはできないおもてなしを受けました。

黄さんのご両親の親族一同も滞在中に折々やって来て、とても楽しい時間が過ごせ、一生忘れられない心の交流となりました。

派遣にはじまり招聘事業と、相互交流を実現してくださった国際フレンドシップ協会ならびにかめのり財団に感謝いたします。(父)

◇

台湾は、ほんとうによかったです。コーシンのご家族、そしておじいちゃんとおばあちゃんには、これ以上ないほどお世話になりました。私も海外には何度も行きましたが、こんなに至り尽くせりの旅行は初めてでした。

宿泊したホテルは偶然おじいちゃんの家から徒歩5分のところにあり、毎日車で(80歳代なのに)色々なところを案内してくださいました。交通渋滞は激しく、また、バイクに籐で編んだ籠を乗せ、そこに子どもを乗せている人もいて驚いたと同時に怖かったです。

おじいちゃんは蒋介石とともに中国本土から来たという一族で小学4年生から日本語教育を受けています。

日本にいやな思いがあるのではないかしらと行く前は気になっていましたが、全くそんなことはなく、笑顔で「日本が好き」と言ってくださいました。



向かって右より、コーシン、同母、祖母、祖父、千陽の母、千陽と弟、コーシンの父

台湾で有名な夜市にはおじいちゃんや親戚の方々と夕食後、娘と主人が行きました。主人は筆談をしながら毎晩お酒を飲み、楽しい時間を過ごしたようです。夜市のお店はどこもちゃんとしたレストランよりも美味しかったそうです。

コーシンのお母さんは午後3時くらいになると甘いものを食べる習慣があります。台湾の方はおおむね甘い物好き。娘はバレエの発表会のためにダイエットしていたので辛かったようです。

帰国する日、台北101(地上101階の超高層ビル)は是非、行くようにと連れて行ってくれました。おばあちゃんはその日、年に一度の同窓会の日だということに、チケットのことや何やらお世話をしてくださいました。

そして最後に飛行場には親戚の方々も見送りにきてくださり、本当に仲の良い一族でした。主人は、感激で最後の空港でのお別れのときは、大泣きしていました。(母)

世界万華鏡

英国留学生の見た日本

ジェームス・ラティマ

“ある静かな世界”



みなさん、悩んだり困ったりしたときに、どうやって自分自身を安心させますか。私は、日本の歌で安心することができます。「盗めない宝石」という歌です。

「盗めない宝石」という曲は、初めて日本語で聞いた曲でした。ゲームのエンディングテーマとして歌われていました。この曲は、静かなギターメロディーに合わせて、細い声の女性ボーカルが、とても優しく歌っているものでした。また、エンディングテーマではありませんでしたが、終わりではなく、始まりをイメージさせてくれるような、わくわくする曲でした。

私は、子どものころ、スラム街のようなところで育ったので、いつも身に危険を感じて暮らしていました。周りの環境が悪く、まるで暗闇の中のような生活をしていました。この時期

は、私の人生は、まさに「黒」一色でした。

悪いことばかりする友だちとは、関わりたくなかったので、学校へ行っても友だちとは遊ばず、すぐに家に帰りました。母はとても心配していました。母は仕事をしながら、一人で私と弟を一生懸命育ててくれました。つらいことがあると、“Weakness is only in the mind”という考え方、つまり「弱いところを見せてはいけない」ということを教えてくれました。母の言葉は、きびしいものでしたが、私には母のやさしさが感じられ、「自分ももっとがんばるぞ」と強い気持ちをもつことができました。

そのころに出会ったのがこの曲です。歌詞の意味はわかりませんでしたが、寝る前に毎晩その曲を聞いていました。この曲を聴くと、安心できたのです。まさに、私が理想としている人生、けんかや犯罪がない生活、すなわち「静かな世界」を味わうことができました。真っ暗な、黒い海の底から浮き上がることができ、すきとおった青色の水面が見えてきました。そのきれいなコバルトブルーは、私の希望に満ちた将来を想像させてくれ、前向きなすっ

きりとした気持ちになりました。

「盗めない宝石」のような美しく、また励まされる曲を作る国の人は、どんなことを考えて、どんな言葉話すのかを知りたいと思い、日本への留学を決めました。

今こうして日本で留学生生活を送れているのも、「盗めない宝石」という曲のおかげだと思っています。この曲のメロディーのように、今の私は、まるで静かな海の上で、波にゆっくりとゆられ、幸せな毎日を過ごしています。さらに、上を見上げると、オレンジの太陽が見えています。そのきらきらした太陽は、私のこれから目指すべき目標を表しています。

一曲の日本の歌が、私の人生を素晴らしい方向へ導いてくれ、小さな幸せ、静かな世界を手に入れることができました。「盗めない宝石」、みなさんも聞いてみませんか。(平成25年2月1日実施、日本語学校合同スピーチ大会、参加者スピーチ)

平成25年3月17日発行
 一般社団法人 国際フレンドシップ協会
 〒106-0041 東京都港区麻布台3-4-12
 麻布台ロイヤルプラザ502
 発行責任者: 及川 伊佐子
 編集: 事務局 03(3582)3021
 印刷: 音和堂印刷株式会社